

# 図書だより 第10号

令和8年2月25日 発行  
兵庫県立飾磨工業高等学校 全日制 図書部

## ご卒業おめでとう

3年次生の皆さん、いよいよ卒業目前ですね。飾工での3年間を振り返ってみて、どうですか？楽しい高校生活を送れましたか？何かに一生懸命頑張ることができましたか？進学する人もいますが、ほとんどの人は就職し、「社会人」になります。高校生の間は大目に見てもらえていた事も社会人、成人になると許されないことも増えます。「自己責任」という言葉が降りかかってきます。自分の行動には責任を持たなければなりません。軽率な言動で人を傷つけたり、自分自身の人生を台無しにしたりすることの無いよう、よく考えて責任ある行動をとってください。

そして、常に笑顔を忘れず、人に優しく、自分にも優しく（甘やかすのとは違います）、人生を楽しんでください。これからの皆さんの人生が素晴らしいものになるように、心から願っています。

今年度の3年次生の図書室利用状況を報告します。

みなさん、3年間図書室を利用いただき、ありがとうございました。

	来室状況											貸出状況 貸出冊数
	来室時間帯					来室目的						
	昼休み	授業中	放課後	その他	合計	読書	自習	授業	部活	その他	合計	
3-1		6	1		7			6		1	7	0
3-2	3	7	7	1	18	6	3	7		2	18	8
3-3			12		12		7			5	12	5
3-4		116	20		136	1	13	114		8	136	9
合計	3	129	40	1	173	7	23	127	0	16	173	22

※授業での利用数は概算です。利用簿に記入されたもののみ集計しています。

本の貸出冊数はあまり伸びませんでした。授業ではたくさん利用していただきました。

図書部長より3年次生へ最後のおススメ本の紹介です。



「ほどなく、お別れです」 長月天音

主人公の美空は就活中の大学4年生。不動産関係を希望して就職試験を受けているが、毎回落とされる。縁あって、時々アルバイトをしていた葬儀場で就職をすることになった。彼女を必要としてくれるスタッフの漆原さんもいたし、彼女の優しさが、大切な人を亡くした喪主さんたちの心に寄り添うことができるということもあった。そして何より、彼女は亡くなった方の気配や気持ちを感じることができた。亡くなった人が安心して旅立てるように、葬祭ディレクターの漆原さんをサポートしていた。漆原さんはいつも「訳アリ葬儀」の担当者だった。

この本には、たくさんの訳アリ事例が紹介されているが、そのどれもが特別に変わっているわけではない。見送る人と見送られる人との感情の修復や、残された家族の思い残しなどを取り除くために、漆原さんや美空が頑張る様子はお仕事小説にも通じる。

亡くなった美空の姉のこと、美空を大切にしてくれた祖母が亡くなる時のことなど、家族について考えるきっかけにもなる。亡くなった妻にずっと寄り添っていたのは、その前に亡くなっていた夫だったり。悲しいはずの人の死を通して暖かい人の絆が見えてくる。

公開中の同タイトルの映画も、小説に基づいたストーリーで、美空を浜辺美波、漆原を目黒蓮が演じている。小説はシリーズで4冊出ている。



3年次生の本好きさんから最後のおススメ本の紹介です。

「一瞬を生きる君を、僕は永遠に忘れない。」 冬野夜空：著

クラスの人気者で「星のように輝きたい」と言う女子高校生の香織と、その彼女の自由奔放さに振り回される男子高校生の輝彦。ある日、彼女が明るい笑顔の裏で重い病と闘っていると知った輝彦は、彼女の最期の時までを写真におさめたいと思い、彼女を撮り続ける。苦しくて、切なくて、でも人生で一番輝いていた2カ月間。2人の想いが胸を締め付ける、究極の純愛ストーリーです。

この小説を読んで、一日一日をもっと大切に生きていこうと思えたし、命の尊さについて考えることができた本なので、皆さんにも読んでほしい、おススメの小説です！

(3-4 中塚靖菜)

これまでおススメ本を紹介してくれた皆さん、ありがとうございました！  
これからもたくさん本を読んで、感情豊かな人になってください。

